

「中江藤樹・心のセミナー」
三月映画会開催のご案内

石田弘子

■会員以外の皆様も、どうぞ■

平成十七年六月に高島藤樹会設立、八月に「第一回心のセミナー」を開催、「藤樹教育の五十年を振り返つて」と題して講演会・シンポジウムが行われ、遠くは三重県や大阪方面から多くの参加がありました。あれから毎年実施し十年目を迎える今年、地元の皆さん、とりわけ南北地域（高島・マキノ）の方々に藤樹さんをもつと身近に知つていただきたいと『近江聖人』

に生きた人々と時代がみごとに再現されています。
時代を駆け、不屈の命が燃え上がる。自らの信念を貫き、今日に蘇る熱き心。知られざる中江藤樹の青春一ほとばしる情熱。是非ご鑑賞をお待ちしております。いずれの会場も入場無料です。

◎マキノ会場

・日時：三月七日（土）

十三時開場、十三時三十分上映

・会場：土に学ぶ里研修センター

○高島会場

・日時：三月八日（日）

十三時開場、十三時三十分上映

・会場：高島公民館アイリッシュパーク

※※※※※※※※※※※※※※

『藤樹紙芝居』の紹介①

二〇〇七年、藤樹先生生誕四〇〇年祭実行委員会の依頼を受け、教材委員会はその記念事業の一つとして紙芝居の制作に取り組みました。この年度に、手作りで『子どものころの藤樹さん』と『車が田に落ちた』の二巻が完成しました。

その後も、毎年二巻ずつぐらい作成し、今年度で十八巻が揃う予定です。

これらの紙芝居は、主に市内の小学校・園に配付され、子どもたちの学習教材として利用されるほか、老人会や人権学習会、子ども会でも活用されていました。

藤樹さんだけでなく、共思ふ言葉で話しかけ、澄んだ目で物事を見つめ、耳を傾けて人の話を聴き、まごころを込めて相手のことを思ふ。

います。

そうした中、過日の理事会において

「藤樹紙芝居を実際見たことがない。

利用されているのだろうか。同様の思

いを持つ会員さんも多いのではないだ

ろうか。会報で藤樹紙芝居の紹介を連

載していくべきでは……との意

見があり、他の理事からの賛同もあり

ました。

そこで、今回から一巻ずつ紹介して

いきますので、ご覧ください。（H・M）

『子どものころの藤樹さん』

（解説）

中江藤樹先生は、今から四〇〇年ほど前の一六〇八年に生まれた江戸時代初期の儒学者です。近江の国（今滋賀県）で誕生しながら、九歳ながら、九歳で両親と別れて武士である祖父に連れられ、鳥取県の米子、続いて、愛媛県の大洲へ行きました。晩年、再び郷里にもどり、多くの優れた門人を育てました。また、村落の教師として、地域、近隣の人々にも尊敬され、大きな感化を与えました。

『正義感が強く、誠実に行動した』

『礼儀作法が優れていた』

『幼いころから、物覚えが大変良かつた。』

これらの藤樹少年像を織り込んで、伝え話を生かす形で、子どもが大好きな紙芝居として構想を練りました。

中心テーマは一つに絞らず、家庭生活と家族愛、あるいは地域の人達とのふれあいを中心にして成長する幼き日の「藤樹さん」を描きました。

豊かな自然、温かな家庭生活や族、地域の人々とのふれあいの中で育つ「藤樹さん」の幼少時代、その姿は四〇〇年を経た現代においても、大切にされている子育ての原点ではないかと思われます。紙芝居を演じていただく方には、それらを伝えていただこうと願っています。

移つてからの軌跡や活躍については、たくさん伝えられていますが、郷里小川村における幼少年時代の伝え話はありません。

